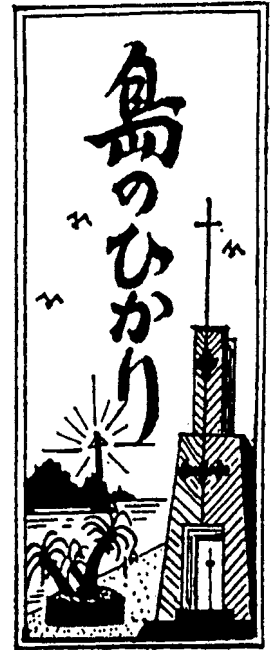




12名に行われた洗足式（聖木曜日）

「島のひかり」ホームページアドレス

<https://shimanohikari.jimdofree.com/>

発行

カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959③0072
印刷・(株)才津印刷所

風は・・・

主任司祭 工藤 秀晃

主の御復活 おめでとうございます。ひと足先に咲いた河津桜は散ってしまいました。教会や近隣のソメイヨシノは今が満開。薄紅色の花が咲き誇る姿も、その花びらが風に吹かれて舞い散るさまも、目にするたびごとに心惹かれ、「ザ・日本」という気にさせられます。

冬の間、何だか沈黙しているかのようなだった司祭館の裏も、あれよあれよと言う間に、競い合うかのように一斉に草が萌出、新緑が一面を覆いつくし、雑草ながらも各々に色とりどりの小さな花を咲かせ、まさに春爛漫、いのちの躍動を感じます。

さて、この時期は、別れもあれば出会いもあり、学業や仕事、あるいは何等かの役割にしろ、一つの区切りが付き、さらにそれを継続するのか？それともやめるのか？方向転換するのか？という事も含めて、新たな次のステップを踏み出す時だと言えます。浦頭小教区においては、今年各地区の地区員の方のみならず、各会の役員の方も改選時期を迎え、久しぶりにお互い顔をつき合わせた総会を開催し、新たな方々を選出してくださいました。それぞれ限られたメンバーの中からですから、顔ぶれが大幅に変わることがなかったとしても、やっぱり何らかの動きがあるわけで、また新しい風が吹くのではないかと期待しています。

浦頭小教区の皆さん、もしもその風が、自分にとって「都合のいいもの」じゃなくても、教会共同体にとって「よいもの」であるなら、人任せ・役員任せにするのではなく、どうぞ率先して後押ししていただきたいと思っています。反対に教会共同体にとって「わるいもの」なら、臆することなく声を上げていただきたいと思えます。いずれにしても、遠巻きに傍観者になるのではなく、参加者になっていただきたいと思えます。



2023年度 浦頭小教区評議会役員名簿

<p>評議会会長(主任司祭) 工藤 秀晃</p>				<p>信仰教育委員会 委員長 鍋内 秀喜 副委員長 木口 北斗 会 計 鍋内 総長</p>			
<p>地区委員会 浦頭 川口 護(委員長) 浦頭 浦口 成人 浦頭 浦口 成由紀(補佐) 浦頭 浦口 育美(補佐) 浦頭 浦口 木梅 強行 浦頭 浦口 木梅 信行 浦頭 浦口 江口 初明 浦頭 浦口 入宮 宏次(副委員長) 浦頭 浦口 崎重 次(会 計)</p>				<p>典礼委員会 委員長 小田 哲也 副委員長 浜口 幸隆 委 員 本村義則 浦口一三 濱崎秀明 荒木善弘 濱崎 毅(聖歌) 濱崎哲司 鍋内総長 鍋内孝之 木口北斗 赤尾幸治 江口初子 川口秀子</p>			
<p>経済問題委員会 (堂崎天主堂保存委員会) 木口 秀憲 川口 孝章 鍋内 秀明</p>				<p>シメオン・アンナ友の会 会 長 梅木 良勝 副 会 長 山川 晴伸 副 会 長 入谷 つるみ 副 会 長 谷 尾 ミツヨ</p>			
<p>壮年会 会 長 浜崎 秀明 副 会 長 吉川 照誠 会 計 鍋内 誠次</p>				<p>女性会 会 長 赤尾 菅子 副 会 長 鍋内 由美 会 計 中 口 しずえ</p>			
<p>福祉委員会 会 長 川口 清純 会 計 鍋内 人子</p>				<p>広報委員会 委員長 竹山 要司 副委員長 (島のひかり編集長) 木口 重憲 会 計 木口 誠也 委 員 小田洋市 竹山 巧 入口 信 江口初子</p>			
<p>青年会 会 長 川口 広利 副 会 長 鍋内 麻 会 計 鍋内 平輝</p>							

黙想会



二月二十八日〜三月三日の期間、水ノ浦教会主任、熊谷神父様の御指導による黙想会を行いました。信仰・希望・愛という私達にとっても馴染みやすいテーマを、神父様ご家族のエピソードを交えてお話しされ、穏やかな口調と相まって大変理解しやすい内容でした。我々の祖先が苦しみに向き合って受けついで信仰を、我々が与える側になるという信仰のあり方について考える機会となりました。

感謝の言葉

濱口 幸隆

私たちは幸せだけが喜びと思いがちですが、様々な苦しみ、悲しみを体験したからこそ、そのあとに来る幸せや行いが自分だけでなく他人も、より豊かな信仰に導いてくれると感じました。私たちは弱い人間ですので、持っている信仰も弱い信仰で逃げてしまいがちかもしれません。しかし今回の黙想を通じて、苦しみに背を向けず、どんな時も信仰を守り抜いて次の世代に伝えて行く希望を見出して生きていきたいと感じました。



中村長八神父様
列福の為の
枢機卿委員会
始まる!!



中村長八神父関係資料(堂崎教会)

長八神父様が福者になる為の大きな節目になる可能性が高いバチカンにおける枢機卿会議が始まりました。
それに向けて、ブラジルでは列福の助けになる様な内容を作りまとめた冊子を作成しようとする。

懸命な努力が続けられています。



宣教画(堂崎教会)

そんな中、一本の電話が東京在住の青木神父様から届きました。

「この前は文章ありがとうございました。無事にポルトガル語に訳してブラジルに送りました。ただ、あと二人程、長八神父様が福者になる為のメールになる様な文章を書いてもらってぜひ送って下さい。」

「どんな人がいいんですか。」
「二人は聖職者、もう一人は信徒の方がいいですね。」

「分かりました。神父様と話してみます。」

広報委員会では神父様と話して合って一人はSr木口直恵・もう一人は木口利光さんに書いてもらう事を決めました。
なお、文章についてはこの内容の後に掲載しております。

又、二月の役員会において、ブラジルでの長八神父様の列福の為の運動に対するサポート、また、ふる里の気運作りの為、三つの事が決定されました。

以下 その内容です。

- ① 中村長八神父様の列福に関して第一人者である青木神父様に講話をして頂く。
- ② 中村神父様の歌を作り、ミサ等で歌う。
- ③ 三月十二日ブラジルで長八神父様渡伯一〇〇周年ミサがあり、それに合わせお祝いの文章を英語で送る。(二月二十八日に既に送った。文章は3P後半より掲載。)



プレジデンテ・プルデンテ教区
聖ヨゼフ教会

主任司祭 ジョーランド・セヴェリノ・デ・リマ神父様



この度、中村長八神父様がブラジルの地に降り立ち布教を始めて一〇〇周年になり、アルヴェレス・マシャードの教会で記念ミサが行われることをお聞きしました。

中村神父様が全身全霊をかけて神様の教えと隣人愛の大切さを説いたブラジルの地。その地でずっと力強く神父様の列福・列聖への道を進められている皆様に感謝の念を持つと共に、その強靱な意志に強く共鳴いたします。

中村神父様が生まれ、少年時代を過ごしたふる里の信徒として、私達も彼が福者・聖人となる後押しを続けていくことの決意をあらためて意識する必要があります。

中村神父様が福者・聖人となること、それはブラジルの信徒と日本の信徒に大いなる喜びをもたらすと共に世界の人達に大きな共感呼び起こすことにならずです。これからも皆様と共に手を携えながら目指すべき所に向かっていけたらと思えます。それでは、皆様のご健康とご多幸を願いながら。

カトリック浦頭小教区一同



霊碑(浦頭墓地)

小さな思い出

中村長八師を知ったのは小学六年生の頃です。堅信準備組の私たちが集まっていたとき、中村鈴代先生が「これは浦頭出身

の中村長八神父様の遺品ですよ。」と言って祭服などを丁寧に扱い見せてくれました。その時、初めて中村長八師のことを知りました。そして、中村師のブラジルでの活躍を聞き、感動した私は「私たちもブラジルに行つて宣教したいね。」と単純に異国の宣教に憧れ、その場限りでしたが宣教熱を高めたものです。その後、浦頭教会の専任カテキスタとして働くことになり郷土の聖者として子どもたちに中村師を紹介し、子どもたちと師について学び、寸劇などをして親しみをもちました。そのすばらしさを十分に伝えることはできませんでしたが、よい思い出です。

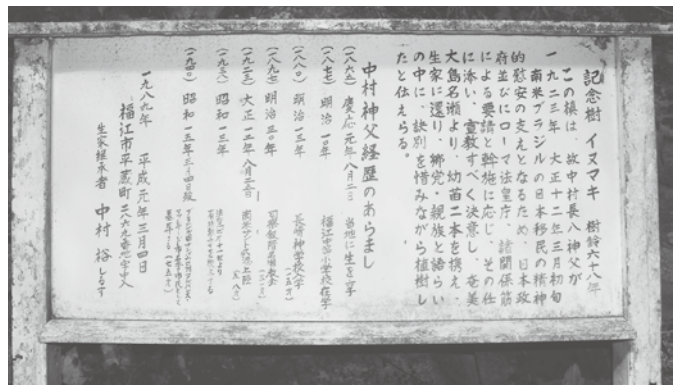


愛用の祭服(堂崎教会)

私は中村神父様を宣教者の模範として尊敬しています。それで里帰りしたときには必ず師の生家跡に行きます。そして、郷土への別れとして師が植樹したマキの木の前で移民の霊的司牧のためにブラジルに渡り、奔走した邦人宣教師第一号の中村師の忍耐と愛に倣いたいと願って祈りをささげます。

中村師は両親もお姉さんも早世した関係か親族が少なかったようです。私が若い頃には師の遠縁にあたる「裕先生」がいました。退職後、中村師の生家跡地の隣に住んでいました。私は晩年に洗礼を受けた裕先生の母親ユキさんのために主任司祭と一緒に何度か病人訪問に行きました。しかし、裕先生たちから中村長八師の思い出やエピソードを聞いたことはありませんでした。裕先生も教師として転勤が多かったので、あまり思い出話なども伝わっていませんでした。親族との手紙のやりとりなどについても聞いたこ

とはありません。



生家にあるマキの木及び説明板



私の母方の祖父は「中村神父様がブラジルに行く前の送別会はいじいちゃんうちの藁葺き屋根の家でしたよ。」と言いました。

たぶん父親が当時の役員だったのではないのでしょうか。また家が大きかったのです。その家で盛大な送別会を催したのではないかと想像しています。せめて直系代々の子孫がいれば時を経て何事かを伝え聞いているかと思いますが、残念ながら具体的なことは分かりません。ブラジルで賞賛されているその生き方と模範が最大の証しだと思います。また長崎教区の神父様方に送った手紙の文面がすばらしく信仰の力強さと宣教の熱意に溢れています。便りは心温まるもので、和歌などを適宜に活用し、教養を感じさせる文面だと思います。何ごとにつけ、郷土の先輩として非常に尊敬し、模範としています。中村長八師の一日も早い列福をお祈りしています。

お告げのマリア会 Sr木口直恵



中村長八神父様

渡伯100周年の祝いに寄せて

宣教の生涯をひたむきに歩み、私達の古里五島信徒の誇りであるドミニコ中村長八神父列福運動が大きな盛り上がりを迎えているとの報に接し、運動を支えていただいております。ブラジルのカトリック教会共同体や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。私は日本の西端に位置し世界最後の被爆地でもある長崎市より海上100キロに位置する小離島、中村長八神父生誕の地長崎県五島市に居住するカトリック信徒です。そしてこの長崎と五島の地は、カトリック人口が全人口の1%にも満たない日本において例外的に多くのカトリック信徒が信仰を守り続けている地でもあります。その信仰の遺産が2018年に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界遺産に登録されました。

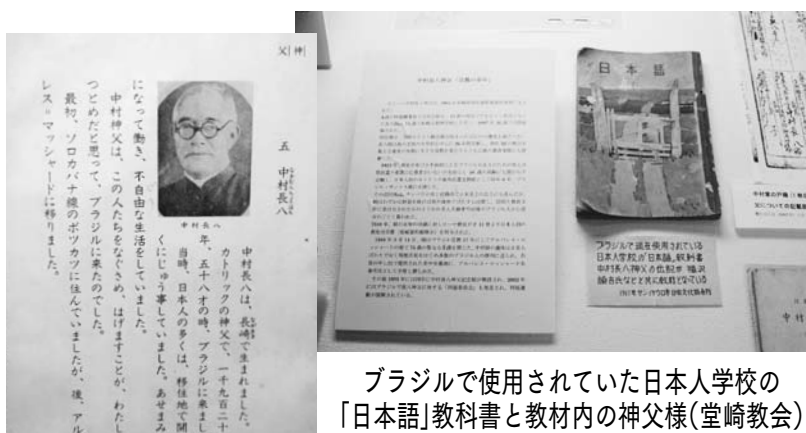
父様の生涯は、まさに私達五島信徒の誇りであり、人生の尊い道しるべであります。

最後に中村長八神父列福運動にかかわる全てのブラジル関係者の皆様に改めてお礼申し上げます。本当に有難うございます。

カトリック浦頭教会信徒

木口 利光

この五島の地で250年に及ぶキリスト教禁教を耐え抜いた先祖の信仰を受け継ぐ長八神父は、幼くしてご両親を亡くした悲しみを乗り越え、司牧者としての道を選ばれ、58歳という老境に差し掛かるなかで日本人初のカトリック海外派遣宣教師としてブラジルの地を目指されました。私には想像を超えた決断であり、まさにキリストの道に倣う尊い使命感であったと思います。日本では想像もできないほどのブラジルの広大な日系移民開拓地を、わずかな鉄道を除けば馬または徒歩でひたすら宣教された道のり。長八神父様が書かれたユーモア溢れるお手紙からは、日系人から、そしてブラジル人からともに慕われた神父様のお人柄が偲ばれます。神様への愛とひろい隣人愛を生き抜いたドミニコ中村長八神



ブラジルで使用されていた日本人学校の「日本語」教科書と教材内の神父様(堂崎教会)

随筆 時を越えて

昨年せむいの夏の事だ。蝉しぐれが少しだけ止みつつある夕刻。電話のベルがテレビの音声に重なる様に耳元に届いた。「木口さん。数十年ぶりだけど私の事を覚えてますか。」「私は木口さんが東京にいた頃、バイトと一緒に働いていたAあというものです。」少しの沈黙の中、記憶は凄いです。ピードピードで四十年以上前の事に向けて遡さかのぼって行く。

④さんは自分の記憶の糸をときほぐしてくれる様に、少しづつその時代に共有した思い出のエピソードを語っていく。

「ああ、思い出がよみがえって来ました。一緒に神宮球場に行って江川投手とハワイ大学のタツノ投手の凄い投げ合いを見ましたよね。」

「そうです。そうです。」
懐かしい青春の日々の思い出が溢れ、流れていく。

島内ドライブイン

三月二十九日、小学生侍者旅行に変えて「島内ドライブ」を行いました。次回は島外に行ければいいなあ!!



下五島合同堅信式



中村大司教様と福江教会にて

一月十五日、合同堅信式が福江教会にて行われ、十四名に堅信の秘跡が与えられました。

中村大司教様による初めての下五島合同堅信式、説教の始めにNHK朝ドラ「舞いあがれ!」主題歌「アイラブユー」が流れました。「どんな言葉が君を幸せにするんだろう」というフレーズは次の被災経験のある高校生の話しに繋がります。災害で親を亡くした幼い子供達は祖

父母の家で暮らし始めます。当所、何で自分達はこんな目に合わないといけないのか?というやり場の無い思いがあった子供達。祖父母は頑張って育てます。高校卒業式時みんなの前で子供達は祖父母に感謝の言葉を述べます。相手を思いやる行動や言葉は人を幸せにする為、皆さんもそうあって下さいと説教されました。一週間後、小教区のミサ内で紹介された堅信式を終えた三名の中学生はそれぞれ感謝の言葉とこれからどう頑張りたいか力強く述べられました。



左より鍋内翔吾さん、小田蒼海さん、木口美海さん(浦頭教会にて報告)

カテキスタ養成 基礎コースを終えて！

川口 護・秀子

二〇二一年六月から二〇二三年二月まで月に一度、下五島地区内の神父様方を講師に、沢山の勉強をさせて頂きました。下五島地区全体から多くの方々に参加されるのだろう！もう少し「カトリック」について教えてもらえれば…！という軽い気持ちで、夫婦揃って参加させて頂きました。実際はとても少なく私達の他は一教会のみでしたが、神父様方の真面目に、そして時は脱線したり、ユーモアを交えてのお話しには、時間が経つのを忘れてしまう程でした。

旧約聖書に始まり新約聖書について、そして「秘跡」のひとつひとつについてや、現代社会の中で「キリストと一致して生きる」事など、知れば知る程、難しいなあと感じている自分達がいきました。それでも神父様の

話して下さる事に必死で耳を傾け、時には文面にラインを入れながら、時にはわからない事を尋ねたりして、気付けば「修了」の時を迎えていました。私達二人は「カテキスタ」としては入口に立ったばかりですが、まだまだ未熟な者達なので、これからもイエス・キリストにならない、キリストと共に日々を過ごしていきながら「今」私達にできる事を模索していきたいと思っています。しかし、自分達だけでは、成し得ない事もあります。



これまで同様、御指導、お祈り、そして時には「やさしいことば」をかけて頂ければ、より力強く、キリストと共に生きる者として

少しでも皆様に寄り添える事ができるのではないかと思っております。これからも私達二人をどうぞ宜しくお願い致します。

秘 跡

◎主よ、永遠の安息を

フランシスコ・ザビエル

川口 清神父様 八十二歳

一月二十九日 浜泊

ミカエル

木口 明治 九十二歳

三月六日 浦頭

おたより

主任神父様、島のひかり編集部の方々が、新年度を迎えて、浦頭教会のために、ご活躍のこととお察し申しあげます。

遠くで知るふるさとのニュースはなつかしく楽しいことです。いつもありがとうございます。

今年も神さまの祝福が豊かにそそがれますよう、お祈り申し上げます。

京都府 Sr小島エイ子

「ありがとう」

次の方々より沢山の御芳志を頂きました。お礼申し上げます。

京都府 Sr小島エイ子様
諫早市 木口 涼様
長崎市 匿名様

奥浦修道院 異動

●おつかれさまでした。

Sr久松 智子 黒崎修道院へ

●宜しく願います。

Sr岩崎香須美 本部修道院

Sr赤尾 律子 生月修道院

《転入》

川口政則

東京教区・神田教会より

浦頭地区へ

《転出》

小林利彦さん家族

長崎・中町教会へ

ふる里だより

新・新船

★新シィガル就航

四月一日、木口汽船のグラスボート船がリブレースされました。新シィガルは離島航路の一翼も担い、久賀島の田ノ浦港と福江港を結びます。又、グラスボートとして竹ノ子島の美しい珊瑚や熱帯魚観賞の周遊観光も行います。生活航路として安心安全な航海と非日常の空間「癒し」が提供されていくはずですよ。



創造ロボットコンテスト 全国大会



夏休みから本格的に準備し、五島市大会、長崎県大会、九州大会を経て、一月二十八日(土)に全国大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策で奥浦中学校を会場としてリモート開催となり、直接応援できるといふありがたい大会となりました。

二年生が出場した計測・制御部門では審査員特別賞受賞、三年生が出場した基礎部門では三位入賞、さらに全国中学校産業教育教材振興協会長賞を受賞しました。

“大蔵川沿い道路 修復終わる”

昔、多くの子供達が学校の往復によく利用した小道。今も、その傍らには澄んだ水が淀みなく流れていきます。

数年前までは、この小道で奥小・奥中の子供達を中心としていっぱいの人達が集まり蛍鑑賞会等も行われていましたが、コンクリートの大きなひび割れが進み、鑑賞会等も出来なくなっていました。そんな中、修復工事が終わり、サラサラと流れる音を聞きながら、散策する事も出来ます。“良かったねー!”



編集後記

黙想会の頃、干拓を彩っていた河津桜は散り、緑一色だった山々には白い山桜がアクセントとなり賑やかさを増してきた。寒さが苦手な私には、待ちに待った春がやってくる。

コロナも終息に向かい、あらゆる事が緩和されつつある。そんな中、奥浦地域にとって一番の話題といえば奥浦小、中学校の福江への統合の話。「とうとうこの日が来たか」という感じ。私の子どもは既に成人になってるので情報に乏しいが、中学校が現在二十一名。令和六年四月から福江中学校への統合が決定されているらしい。小学校も検討の対象になっているとのこと。私たち卒業生にとっては母校が無くなる寂しさはあるけれども、在校している子供たち、保護者の皆様にとって統合が良い方向へ向かうよう願うばかりです。

竹山 功

〈訂正とお詫び〉

前号の編集後記の木口重憲の文中に「河川潮」とありましたが、「河口湖」の間違いでした。ここに訂正しお詫び申し上げます。